

古今集遠鏡

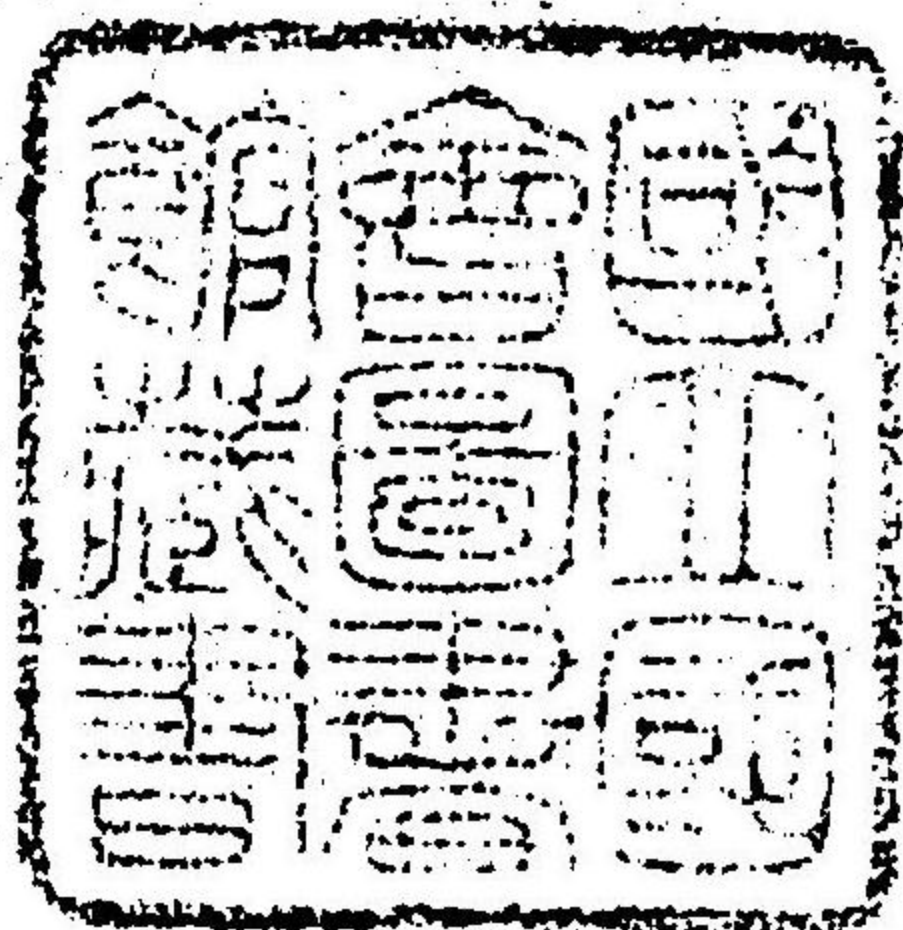
三

911.135

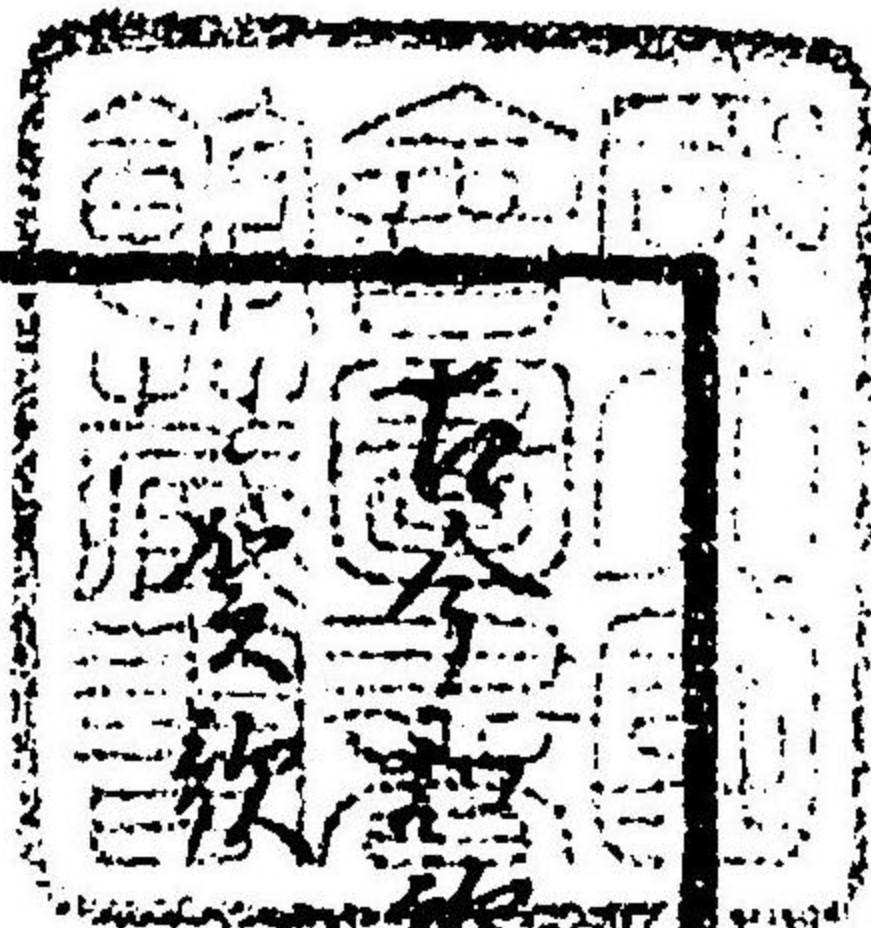
M893B

k





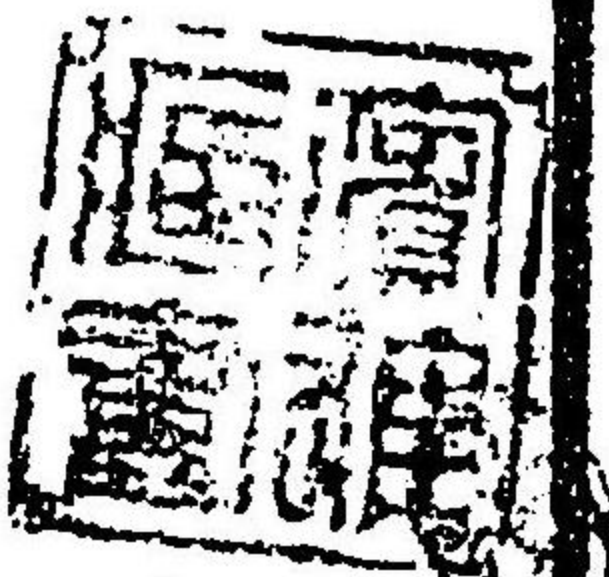
112441



歌集卷之七巻後

歌一らば

よみ人あしど



永君ハよそりハよそふさるるのいふをとりてまはしむ

○コエカイ石ガ太キナ岩ホニナツテ苔ノハエルテ千年モ万年モ

ハ繁昌テオイデナサレコナノ君ハ

つら<sup>海</sup>の浪はまきとぞはつとつと君がふ年乃あつとくばふまひ

○海ノ浪ノ砂ノ粒ヲダシテニカワヘテ君ノ長寿ノ山年ノ数取ニセツ

ふやの山さしむの夜よきむいふまがは代をばハよそをとねく

○シホノ山サシテ夜佳テ井ル千鳥ノ鳴ラキケバ君ノ山代ヲヤチヨクトサ鳴キマス







タニトナリアウテソコラガ野ウ曇ルヤウニセイソシタラソデ道ガ野リテ

朱ル光ガフミヨウテモ来ニイホトニガふハ方家小孝宛疑ハのかまハシバ

ウビシシバのみこばをばのよそがらの如きと大井ヨク

一きさる日ヨリウ　　きのつねをり

いとをもぬ祖母よとおをまゝし

かまのをば山のいよきととてたふば乃ちよちよち救うと

○は大井ノ近所ノ亀ノヲノ山ノ岩ノ子ニソウテオチル所ノ白玉ノ多イ救ハ

ハ寿命ノ千年ノ救カヤシ山ノ名サメテタイ亀山ナレヤ

さじヤらのこまのきさいのまは五十は笑ふそまうり

らる清原凡小様の花ばらちるやふ人の花をくまかこ

加寿々々ハハハハ

養系無風

~~~~~ふさ成月日ハおひやくと花をすくまをきくまき

○ナニモナニタゞるニテイク月日ハ多イヤラスクナイヤラ何屋以ハズニウかくト

ニテクラスガハヤウニ面白イネヲアテクラス春ハキツウ日救カスノウ思

ハハ、竹村おまをきくねまふおどろきして思ハをこふ一月日ハ

多うりらして始りておがゆきさあといふハくねんぞ

かややまをきみこは七十の笑乃らう一海の原見

よみかくかきり海　　きのほしゆき

まろくをばをぶふさぐさく梅のを夫がふ年のあぢい

○まがクレバははをへマツバニサク梅ノ花ヲ君ガ千年一デノまノ



はカザレヤトサなジニスル

赤性法師

いふ人よ何のきおへびをきこもよ年の長し君も始りき

○千年モイキタ人ハ昔モアツタカナカツタカハラスケレ厄ト今ニ

ハサウ入ハナイニ世ヨ千年イキルタメニ君カラ始メサテアラウ

ゆして思ひおきこしぬきや万代ハ世をきこひるが君のいふ

○吾君ノ山年ノ教ラドウゾ万年デモト 瘰テモオキテモ我ヒニスルコト

ハスノガニソ及バズレ 神ガカモ通りニハカラヒサレウカ 家君ノタメニ

神ぞあふひも万葉小部一とていふてあふれおきてあふ

そくひおこぬきさうてていふてあふれおきてあふいあふ

夜系三善が六世安ふみたる 左系まげも依

はるか昔もふ年けいあふれおぬきよゆりせそそくむ

○鶴亀ハ千年ノヨヒラタモツ物トトソモソノ千年ノ後ハドウアル

ヤラシラスガ ぎねハ千年ガツテモミダソレハ十分ニハなせ子其

ウヘモタ存分ニセツタシラハ無事テオキマセウ

此のあはれの人を系と記するがともいふ

うーみひのつねねりがよもむらの安ふむらをんり

あつりてよみゆりき こそいふやうし

あ代をたのむを考成ひつるふ年の長ふもむむと思ふ

○君ハ万年ノ内壽命ヲ待ツナバソノツト云名ノ 松テサオイハヒヤシ







○巨ノ江ノ松ヲ秋風ガサアトフクトソノミドオト浪ノチヲ  
ウチソヘル

ふもろけくしやの川香あらぬし山の木葉も色まきりゆく

○佐保山ノ木葉モ色ガサウチキタケトホリナレバ今ヲテモウ

佐保山ノ木葉ガタツタサウチ。秋ニモ多岐のこころに春も

秋ノ色も加へぬに山ノ木葉も色まきりゆく

○秋ニツテモ木ノ葉ノ色ノカラヌト云常磐山チヤニヨツテ山ニ紫

ハナイニヨツ山ノ木葉ヲ風ガ吹テ赤テサ此トキハ山へ借スワイ

冬

ふもろけぬりきく時きみしけく山下風ふも色まきりゆく

○け吉也ノアタリトコモカモ白ク雪ガフツタ時ニ山ノ風デフモトハ花ガサアワイ

春言れくまれきりし時ふゆかりてよめる

典は藤原よるくはれは

あまのこも白くゆりしづる日ハクの時をくしてふべらけり

○春日神ノ内末ノ夜系氏ノ中テモ上モナイ内方ノ姫君ノ内腹ニ

テキマシサツタ若キ様ナハテウドソノ春日山ノ高ウウチハレテ

クモル雨ノナイヤウニ内行末イツテモクモリナウ天下ヲ照シアソバステ

アラウト存ジラレマス



古今和歌集卷第八巻後

離別歌

歌五三

車糸平好古

まよかきつらばの心乃きふあつまのきくふ今かたりの心

○今は方ハ系ヲ立テ別レテ因憶ホヘ下ルガイハノイナハ山ノ家ニハ

エテアル松ノ名ヲホソニソナ名ハ方ヲ待トす冬ヲチキ又由テコウワサテ

よみ人あはれ

まがらぬ秋の萩りし秋ぬらして松ゆく人をいつしうきまき

○秋立テ旅ヘユク人ニ一萩ノ笑テアルハ秋ノ我テ今ワカレルガ

オカヘリヲバイツトヒウテマウグソキツウまイデーアラウ

あはれまがらぬ秋の伝うをがら

かぎりぬきまをわはれまをふりかゝるもくをいふかゝるまを

○今カウ別レテ限リモナイまイキヨリアチラフ心ハワシハイキヤガソレ

テモハ心ハ久々ハ心忘レルモナニ思ウテ行ウキヤニヨツテ心内ド

コニテモイツヨニワダツテイクモロヒヤワサ身コソカウニテ今別ルレ

心内デハキ格タチラアトハシテオカウカイ心デハツダツテイクワ

サテ あはれまがらぬ秋の伝うをがらし 離別歌

まのくちあつまをみちかへくのまけにまかりらるる時ふ

まのくちあつまをみちかへ

あはれまがらぬ秋の伝うをがらし 離別歌



○ソナタ身ノ守リキヤトヒウテ添ヘテヤルハ母ガ心バカリヲハユクサキ  
ノ実アキデモ ドウゾトソテトサルナ トホシテヤツテトサレ

きんぎょのみのみおあうそぬぢりいおきんぎょが道  
江のまけふまかりらるるおふしぬるいまよひまじ  
りあふくぬるる きんぎょのきんぎょ

くまのまけふまかりらるるおふしぬるいまよひまじりあふくぬるる

○今日別レテ明日ハキキニ又アハレルホド近イ近江風ギヤトハヒ  
カハツタモノデ別レトイハ悲シイア、おガイカウフケタヤラ 社ガ  
夢デヌレタワイ イヤクコレヤ後ギヤワイ

あしあかりきんぎょまよひまじりあふくぬるる

こころ山あらしといきげんきき夜あらしわくもねばるる

○おまニカヘル山ト云山ガアルトヌーナバも各ノトホリニオウケルを  
るデカヘラツシヤラウトハヒドソレデモアノ産ノ立テアル方ヘ立テ別  
レテイカニヤツタナラバ悲シカラウ

人のうぬろもねむけあしあふ

きんぎょのきんぎょ

きんぎょのきんぎょ

○オゴリヲシテバビダタツシヤラヌウチカラハヤシヤウニキイアテ

三 立テイカニヤツタアトテバドノヤウチコ、チガスルデアラウ

あしあかりきんぎょまよひまじりあふくぬるる







○一 由立チノ日ヲバ明日チヤトスーハワシヤモウサマスマイ ワシラバ  
ステ、オイテ出ナサル一ナバ明日由立チヤトサテハ 明日ノ物ニナツ  
タナラ ワシヤモウサマノキエルヤウニアラウト存ジラレマスモノ

はまはつる人ほくら成るまるといふ  
久ふつきて年入くまひる人  
明日かじりていふはつる  
まてまていふはつる  
おとちりまかひるはつる  
よまていふはつる  
おとちりまかひるはつる

○ 毎日アハレル公利格チヤトハねマレヌ ミヅクサイ心ナレバ  
ユエワシヤ存ジ立ッテ乃陸へトリテスル今度ノ旅テゴザリマス  
きのひのきいぐらづきまかりきるおふ人の  
やどりいあろきおしりまかりまじい  
女のおしりまかりまじい  
えぞあぬ今ころはまかりまじい

○ オマハワシヤツイマデモ忘レサヌトオウシヤルケレバ ワシハドウモワレハサ  
エガテンセヌ 未デワシヤガ忘レルカ オマハガ忘レテトウテトサレヌカハ 命ガ  
アツテイキテ居タナラ オウケ知レウホドニタシテゴラウシヨ ワシハオマハ  
ツイマデモ忘レハスマイガ オマハ違付私ラバ忘レサレバアラウワサ



あひまをいしゆる人なりけりまのうらまひのうらまひ  
おろしとてしよるる ぬるもぶ

そよめもあまのうらまひのうらまひも福はかると人よるるうらまひ

○そねが今なほドレホドまきイホヘイカシヤツテヒ 拙者が心ハ

イツモツノきねノ方ハカヨウテゴニシツテハ居子バヒツキヤウイ

今別レテ路ニシルトスラレルハカリヂヤ心ハ別レハせヌ

なほあつて人まありりるはふよるる

よーみものごでごの

ふまはるるかあふまあまきんけぬさくくく旅うぬ

○雲ノアチコチへ今シテイタヤウニ今なまきイるヲヘタテ、別レ悲心シサニ

今ハハムケニ進ズル此手向ノ麻ノコマカナヤウニ 拙者ハイロクニ心ヲ

クタイテサテクナゴリラレイハ旅ニテゴザルナカナ ○ふ秋まぬさくく  
みもの緒さくく

こゆるまきりて、候ふ入れて、道のゆまゆまは料。

みちのふあへまありりる人ふよみてつる

ほーゆき

あーやれいふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

○ハルカニ雲ノイクモヘダツテアルアチラふまテアラウ氏 拙者ハきねノ

ヲタエズ思ウテ居ヤウホドニタトヒまハハガテル氏 心ハハタテサツシヤルナヤ

人をわかれまほふよみり

こうれふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ







しめらるるふきあしむらひのよのしんもあけぬ  
くじがうごふよめく

も後ものふじしちがめよきるべし秋のふもハ情くやあぬ

○トモぐニウテドウソオトナセキリぐスヨ 今秋ノ別ト時ガニオ  
ワカレナスハコホドナゴリラレイニソチハナコリヲレウチイカイ

年、月、日、時、分、秒

秋芳はものふまわくくわもねむはしぬあひふさひや海ひ

○アノ芳ノまヤウニキ根モ共ニ立テ出テイカニヤツテ別トタナラワハ今  
カラハアノ芳ハマヤウニ心ガズニイウモオナツカレウ思ウテタテルデゴリラウカイ  
保き保がほくく入ゆあみむくはかりきさあかやん

さしめしんちあもさしんちあもさしんちあもさしんちあも

ちちちち

くじがうごふよめく

○今サハ心ニカセニツテ死ナズニ居ラル、あナラナニガサテは別トチガコハニ

想ニカラウグイ人ノ余ハはぬハ時ガニテイノモ知スニヨツテサ 想ニイワイノ

くじがうごふよめく  
くじがうごふよめく  
くじがうごふよめく

みらぬあめさ

くじがうごふよめく

○人ノサセル語テナイ我心カライノ語チヤニタイガイナラナラモウイキ











○トテモスゝニ嘆ホドナラバ 君送り多ウ思テオトマリナサルヤウニ  
 嘆タカヨイソレニ君ヲオカヘシヤスノハ 花ノキコエノデハナイカ 花ノキ  
 コエノギヤワサオカヘシヤサウハナイワサテ 結句又 花ヨソチカタニモウ  
 イコデハナイカソチガタニモウイコチヤワサテ

仁和のみにぞもふおこし 向ふはあふぬるは  
 けらえしふおこし せかひのけいりくたすは

兼盛は所

けうきとあしふく 海あはれふく ちかきとあしふく ちかきとあしふく  
 ○ノコリオホウテは別レヤス 拙傍かけ海が流ニソウテ流レルコトデア  
 川トデアらガマシタトエエルデカナアラウ

かじきとあしふく ちかきとあしふく ちかきとあしふく ちかきとあしふく  
 ぬのくみとあしふく ちかきとあしふく ちかきとあしふく ちかきとあしふく  
 ちかきとあしふく ちかきとあしふく ちかきとあしふく ちかきとあしふく

秋葉のさくばらぬ ちかきとあしふく ちかきとあしふく ちかきとあしふく  
 ○アノ萩ノ花ヲ此雨ニヌラシテシラフカニテシマウハキツウ惜ウ思ヒ  
 スレバマダツレヨリモキ格ノけぬニヌレテは海リナサルノニ別レヤスガ  
 サナホサラぬ名はラシイコチヤト存ジラレマスワイノ アマモトウアガ  
 リマセ ソノ内ニ雨モヤミマセウワサテ

とよあつきのかきし 兼盛は所

きしとあしふく ちかきとあしふく ちかきとあしふく ちかきとあしふく



○ソノヤウニ別レヲ情ニテ拙者ヲ由源切ニ思ウテトセウトハ今日マテ後ニ  
 モなゼナシダサウシタキ程ノ由志ヲ存ゼナシタウ事ニ拙者が身ハサ此秋  
 ノ由源ノフルト云ヤウニ舊ウナウテモウラチノアカス物ニテリニタマソソ  
 子ウ若イ内ニ其由志ヲ知ラテ別シテ大考ニテガラウニア、妙念十  
 如後ニ由源ヤキミオモドモテおびろりして  
 色ヲ由源ノ由源ニシテ  
 日かきせどしやーくもあつらふひよりあつらふはふはを思はし  
 ○はちレトスハナゴリラシウハアレドサテクニア様ニイカチナセニトヤスニ  
 今夜ヨリサキイマダ由源ニナラテシダウチニハ何ヲオナツカニウハ思ヒマセ  
 ウグ今夜始テ由源ニナリマシタコソ由別レトスナレスレヤ別レトナ  
 ン

リラニウ思ハレヤウニ由源村ニナツタカナニボウカ様ニイカチヤウサテ  
 由源ニシテ  
 由源ニシテ  
 由源ニシテ  
 ○ノコリ多ウテ別レル袖ノ後ハトトモノヤウニ為ルガハ玉ヲバソコモ  
 トノ形見チヤト存ジテ即チ此袖ニツ、ニテサ糸ル  
 由源ノ如ク思ハ後よもやらぬ神をかりりおまじ日よもよ小  
 ○此別レヲナニボウカ様ニシウ思ウテ此ヤウニ由源ニヒツタリトヌレタハ袖ハ又  
 由源ノ由源ニハ乾キハスイナセニト云ニホドニ悲シク由源ニチヤニヨツテイツテ  
 由源ニラニイホドニイツヲ限ットヌーモナウ送テヌラヌテアラウニヨツテサ  
 由源ニシテ  
 由源ニシテ



○此者每ハトテモフルホドナラバマツクラニナツテマツツトツヨウフツタガヤ  
ソニタラ<sup>四</sup>けぬライヒタテニシテみレテイク君ヲトメウニ

ふひくゆく人々をさむ様をうつもばさくぬふもちり此

○ナボトメテモトニラスニシヒテみレテイク人ヲトメウニ様花ヨ通ノヒヌヤ  
ウニチリウツニドレガさギヤトアノ今迷ウテエユカヌホドチツテクレイ

とらぬじをさむてい一弁のやあくおひひく人のぶ  
れいさふふよふさるはゆゆ

むごごののきくくふくくくく井ぬあうでもくふふさぬく  
○想沖はヤウナ山ノシミツハ浅イおギヤニツツテ飲ウト思ウテスクハバ  
よカラ後ルル事デギキニほルニヨツツテ思ウヤウニスクウテノレヌ飲タラヌ

物ギヤカテウドとをリニサテくア沙リ多イニヤノ人ニカレタハカナ

そふらつりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
りくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

下は常のみちハかひくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

○アヤスルニウシロハアテタ所デハ端ノ方ガあ方ハワカレルケレハ前ハマ  
ハシテムスブ取デハ又イキアウおギヤガとをリニ今イク道ハカウ別  
ニワカレテイクハ又ツクウチドウレテナリハ出合ウフサテ







みちをたもとみらぬるづらぬまじらぬかせせ

○今日京ヲ出テはミカノ系へキテアノ向ニエエル山ハ藤原山ナリガク泉

川ノ川風ガキツクキイニアノカセ山ヨオニキルモノヲツ借せ山

よ秋ニのむれりいりせ藤原山と云ふもの  
みちみちり。澤ハもつらなり

ほのぐとあけお浦乃好まふ傍がくれやへ船をぞとや

○夜ノウスクトアケテクル時ニ海上カラスビアノ向ニ明石ノ浦ガ好ま

テカクレテスエヌヤウニナツテイクアノケニキラ 甚ウヨシニステテイク

け船中ノ心ハサテモく心ボツイおガナニイノチヤ

けあいらく人のめくかあのもくナリ

此まハ寺岡ハ出されぬまじらぬ今昔物成ちのち

のきしんぞよけかきまじらぬ海もがけ

あまのたむとむけのそあまのく今昔物成ち

かはのまふとや。船材はのむれ流るるがくれ

まじらぬまじらぬまじらぬまじらぬまじらぬ

かきしんぞよけかきまじらぬ海もがけ

あまのたむとむけのそあまのく今昔物成ち

かはのまふとや。船材はのむれ流るるがくれ

まじらぬまじらぬまじらぬまじらぬまじらぬ

かきしんぞよけかきまじらぬ海もがけ

あまのたむとむけのそあまのく今昔物成ち

かはのまふとや。船材はのむれ流るるがくれ



















ふくく花れおづくふくやぢつてうらひげとのこもめぬくうひ

○オノガ心カラスキテ 花ノ葉ニヌレナガラ ツライコトギヤ 乾カヌト云テ

考ノヒタスラアリヤウニナクハドウ云フヤラ

ほそくぎん

くきやいごさきさきぬめやほくびてぬくもをば人ともよむ

○郭公が待ッ妻ノ来ベキジツガヒテコノカシテ マチカ子テナクアノ声

ガ人ヲビツクリサセル 郭公はうへの意のさき 餘材よりし

オササヨクハ 一 路のり流ハコト

うつさき

まゐるげんあ

後のうりせみさばあをみだれさるる神よをぬるうらひや

○浪ノウツ川ノ瀬ヲスレハ 水玉ガトントコトノ玉ガサチルヤウチワイ

アノ玉ヲヒロウタナラ ホシノ玉デハナイホドニ 袖ハ入ウトシタナラ<sup>五</sup>チキニ

消レデアラウカ 餘材より

かへし

壬午の冬

ふゆのやうらひをぬれてあはしくまめやそれさきさきうらひ

○オノ格ハ袖ハ入ウトシタナラチキニキエルデアアラウカト云ハシヤルガ テモ

神ヲオイテオニ玉ヲツマウカ 神ヨリオニ玉ヲツマウ物ハナイハサテ

スレヤオノ格ノ袖ハツクデコレガサフレゴザルト云テ ワレガ袖ハウツサツ

ヤレワレモスヤウワサ オササヨク 餘材より

うらひ

よみ人しうらひ



あけうめふほほあきへくとあきぬくまきかききあやひつ

○梅の花ハヤレクウイおヤ一モナウあテヒイサウテ 目ニ常住スラレ

サウニモアエヌ一カナソクセアトテあヒカリサウナ香ハヨウニホウテサ

かふむげくく けしゆき

かづきぞとほのまふいさぐりもて凡やくふういさづひ玉

○海ニ浪が立テ水玉ノチツテキエルハ 玉ノヤウナガ ソレラホレ玉ギヤト思ウテ

一海ノ底へハイウテ取ウトスレモ 浪ノ中デハドウモチニアタライテトラレヌ

ソレテ凡ノクク及ニテウド底ニアル玉ガウイテハシヅミウイテハシヅニスルヤウニスル

そちの花

今いぐりまきあきさづくひまのいあきまきあきよあきあき

○モウ春ノアヒダハナニホドモナケバソレヲ多ク思ウテ人ト目ジヤウ一

考モニニキサウナカホレテ 想思ニスルヤウナサウニスル

かきとくおむ ぬりやぶ

あけうめふほほあきへくとあきぬくまきかききあやひつ

○をフタラウレヒイハズガヤニをナガラモヤツハリソレテモサカナヒイワイ

アハバダふヒヌサキカラハヤルソレヲ思ウニヨツテサ

あけらばさ きのひまきいんが

あけうめふほほあきへくとあきぬくまきかききあやひつ

○山カラ立テハナヒテイク雲ノトマリドコロノ定ニラヌヤウナモノデトト

行ホノサドウナラウヤラヒヌセノ中ギヤワイノ







見ればさういふもどつとつをば音をあてぬもあつていふらん

○オレ花ト云物ヲ今初始ノテヤアタガをラバ世リノ人ガアタナ物ヂ  
ヤト云ヤガナルホドスレバアタナ物ト云キ色ヤアノオチアノよし

をこねてー ともいふ

はあをあよぬくとやさういふ花も葉も色をみるし

○あうまにテウグトテヤラ蜘蛛ガ女ガびノ花(モ葉)モミナ糸ヲ引テカク  
物もあつていふもどつとつをば音をあてぬもあつていふらん

○女ガ花ヲアヤウト思ウテ物ノあうまをテヌしくアイルテ今  
日サヤ山ヲドコモカモミナトホツテ知ツタ

朱雀院のまこねーはあをのあつてみる

あつていふもどつとつをば音をあてぬもあつていふらん

ついでに

をどつとつをば音をあてぬもあつていふらん

○小倉山ノ峯ノアクリヲアチコチアルイテ鳴麻ノコトテ終テキ

夕秋ノ寂ヲサレ羊チヤカイル人ノイ

まらあつて花 ともいふ

あつていふもどつとつをば音をあてぬもあつていふらん

○野ノケレキヲミレバあカレノ物カナイあつていふもどつとつをば音をあてぬもあつていふらん

夕草ノ紫モ色ガカツテキ夕 秋ノあつていふもどつとつをば音をあてぬもあつていふらん



















のちうらひしほのさづくはまきねむらぶとさだちるむとえび

○舟ノカチヘアタツタ信々多ケテキル事ガ今ハまナバ花ガナル

思ハレトトセギヤアレラドウシテモトス又者ガアラウケ

むのきれらうしりぶとまらうしんぼ皆捨つ。ササマらし

かゝる

あやのほし

かろふしつらうしつふまてりなを信はぬものさうりなる

○えびアエテク辛崎ニ人カミテ井ルガアケコハ今テニ何所

テイツカラアミテ居ルヤラ今テニ後々ナラそ路ガアリウチ

おナレバ信々たバ後々路モ妙ツテハナイワイ

信々

ケレバハツキリトハスエヌニ夜ガ明テカラサトクトスヤウ

こそたけみらのとふかふまありはふらまの川

とらふら川の川乃りらふありわてはきねのこ

きぬしでふみらのひまきうかりしあらのうハ

らふらやうふぬはまきさうづいさきとらひ

はまき

あやのほし

のちうらひしあねむらうらふあやかひたのほあふあまふま

○け方ドモハ今日ハ一日持ラシテアルイテヨツク天川ノ川系ヘキタワイ

日モクシタニサテヨイ成キタ天川ナレヤタナバニ宿ヲカラウ

みこはあまかきしつらうしんぼ皆捨つ。ササマらし







夕乃がそゆりハスマイニ 暮ノ中ニモ乃ガアルデモハカヘルデアラウ

おき火

みやこけよりーの

ほきづるかたにえくぬ海川おき火むと紙や巻ハちくまむ

○流レテ知ル係サヘトチヤカレヌ海川ナレバニテ底ノ係サハイカホト

アルカレヌガモ沖ノ係イヌテ水ノキル時ガアツタナラ底ノ係サモアルテ  
アラウカ

らき紙

大にふ果

のらき紙のおくれくあふ紙あれどけふハ紙あふのこまき

○後蔭ノオクシテハエタ苗デモムダニナラテニマイハセズニ秋ハヤツハリ

実ウテサテラアル田ノ箱ヤトサ及テ居ルスレヤモ問デモナニテ

モオワガケギヤト云テ為マイヤウハナイツヤ ちすは白の紙信をく

らき紙  
あふくくのつひまねどまを紙

信紙を宝

まねのけうをふわくやとてちゆけばんをまねふちのぬてま

○ツビデ目ニニアクカト思ワテ 花ノタニト笑テアル中ヲ分テイケバ

花ニ目が移ツテ コチ心ガサ花トイツレヨニアチコチトチウテイクヤウチ

コ、ロモチガスル

そを鏡ニのまねをうつる



